

## 令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（熊野市）概要

- 1 対話市町 熊野市（熊野市長 <sup>かわかみ</sup> 河上 <sup>かんじ</sup> 敢二）
- 2 対話日時 令和5年12月25日（月）11時30分から12時00分
- 3 対話場所 熊野市文化交流センター 多目的ルーム  
（熊野市井戸町643番地2）
- 4 視察場所 くまのスタジアム（熊野市有馬町4520番地325）  
アグリパーク建設予定地（熊野市金山町）
- 5 対話項目
  - （1）アグリパークについて
  - （2）広域でのスポーツ集客について
  - （3）県南部の海岸沿いの道路を活用した広域的な集客について

### 6 対話概要

対話項目（1）アグリパークについて

対話項目（2）広域でのスポーツ集客について

対話項目（3）県南部の海岸沿いの道路を活用した広域的な集客について

（市長）

#### ○対話項目（1）アグリパークについて

熊野市では、観光産業も基幹産業の1つですが、その課題は、多くのお客さんに来ていただいています。鬼ヶ城・花の窟を見て、和歌山方面や伊勢方面に行かれるお客さんが大半です。たまに、山間部の丸山千枚田まで足を伸ばしていただけることもあります。その多くは短時間の滞在で、言わば通過型です。その通過型を、やはり宿泊を増やしていくために、滞在時間を長くする必要があります。これがアグリパークの最も狙いとするところであり、アグリパークで半日程度滞在していただき、堰止め効果になることを狙って、整備・完成したいと思っています。その目的としては、宿泊を増やすこと、働く場の創出につなげたい。もう1つは、農林水産業や商工業との連携による地域の活性化も実現したい。例えば、パーク内で農産物の販売や地元で作られる色んな商品の販売であるとか。また、缶詰め・レトルト工房を整備する予定であり、我々がそういうものを作ろうとすると、都会の会社に委託しなければならず、相当値段が高くなり、なかなかうまくいかないという例がたくさんありますので、そういうところでの連携で地元の活性化にも結び付けていきたいと思っています。

場所は金山町地内で、パーク部門については約10.5ha、アグリ部門については5ha、全体をあわせて15.5haを想定している。ファミリー層を主なターゲットとし、ものづくりと体験、学びの場にしたいと思っています。工房やレストラン、動物とのふれあい農場、ファーマーズマーケット、子どもたちの遊技場、宿泊施設等を整

備します。また、園芸施設の整備を予定しており、今後色々な作物を生産し、6次産業化を図っていきたい。入込客数は35万人、有料会員は7万人を想定し、売り上げ目標は12億円、100人以上の雇用を実現したい。観光集客は休日を中心となるため、平日の稼働を考えて、工房で物づくりをして、有料会員の皆様に買っていただくことを想定している。35万人というのは大きな数字ですが、高速道路のおかげで、3時間圏内で約1,100万人の人口があるため、実現不可能ではなく、ぜひとも実現したいと考えている。

今、基本計画を策定しており、令和11年度にオープンという運びです。全体として、現時点で30億円の予算が必要だと見込んでおり、財政力の弱い熊野市としては、国の交付金等を十分に活用していくことが必須になります。ですから、採択に向けてぜひ支援いただきたいと思えますし、県の財政面の支援もあれば尚更ありがたい。また、施設の整備にあたっては、開発規制、環境アセス等々、様々な規制について、整備促進への支援という姿勢で助言などをいただければ大変ありがたい。

(市長)

#### ○対話項目(2) 広域でのスポーツ集客について

スポーツ集客について、年間3万人の宿泊者数がございます。今日、全国から20チームが試合に来られていますが、親御さんの宿泊者数は入っていませんので、3万人を遥かに超える集客数があります。3万人のうち、2万人がソフトボール、9,000人余りが野球です。それ以外に、ラグビー、ソフトテニス、バレーボール、サイクリング等々がございます。

なぜスポーツ集客を進めてきたかという点、観光は冬場にお客さんが少なくなります。スポーツは全国から集客する力がある。温暖な気候とスポーツの持つ集客力を活かさない手はない。これは、観光客の枯れた、特にオフシーズンを、スポーツ、しかも団体スポーツを狙えば、観光の枯れた部分が穴埋めできるのではないかと、ソフトボールを中心に野球等々について、集客の仕掛けを色々やってきたということです。

どんどん右肩上がりになってきましたが、ただ、課題はスポーツ施設に余裕がないというのが一つ。それから、受け入れ体制としても、市役所の職員は裏方を担っており、小さな市役所であるため、熊野市だけでスポーツ集客を伸ばすことには限界がある。一方で、紀北町でもソフトボールで色んな仕掛けをされており、尾鷲市でも、中部電力の跡地を使った計画を予定されており、スポーツもその中の1つとして考えていると聞いており、広域的なスポーツ集客をすれば、お互いにメリットが出てくるのではないかと。高速道路ができて、それぞれの市・町が近くなっていますので、広域でのスポーツ集客をぜひ今後やれないかということで、県におけるコーディネート、助言等々が非常に重要になってきますので、そこをぜひ考えていただきたいということです。

(市長)

○対話項目(3) 県南部の海岸沿いの道路を活用した広域的な集客について

県南部の海岸沿いの道路を活用した広域的な集客について、伊勢神宮に毎年1,000万人、熊野三山には、例えば本宮だけで150万人、那智勝浦にも150万人ぐらい来ています。この2つの大きな山が、このエリアを挟んであるわけです。一方で、その間は、海沿いに非常に風光明媚な道があるにも関わらず、全然活用されておられません。国道260号線、311号線、42号線を結んで、これを観光ルート化する、例えばドイツのロマンチック街道のようなものにしていけば、両方の大きな山からたくさんのお客さんに流れてきてもらえる可能性があるんじゃないかと。これは、伊勢志摩から紀宝町までの間の全ての市町が一緒になって取り組むべき事項ですので、これは東紀州の広域的なスポーツ集客よりもさらに県におけるリーダーシップが必要になってくるということで、この点についてもよろしくお願いしたということでございます。

(知事)

○対話項目(1)～(3)について(一括で回答)

先ほど視察させていただき、アグリパークにしても、スポーツ施設(くまのスタジアム)にしても、市長のリーダーシップでお作りにならないとできないということがよくわかりました。

これから人口は、熊野市だけではなくて、三重県だけではなくて、日本全体で減っていきます。その時に、どうやって地元の賑わいを確保していくのか、というのが最大の我々の課題だと思います。熊野市は、アグリパークとスポーツで人を集めようということで、非常に良い考え方でやっておられると思います。

観光も、定住人口、そこに住んでいる人が減っていったとすると、交流人口で、他から来ていただく人の数を増やしていかないと経済が活性化しませんので、まずはスポーツでそれをやろうということで、10年間で22倍の人が来るようになったということは、すごいことだと思います。目の付けどころも良いと思います。広域的に今後やっていきたいというお考えもよくわかります。1つの市では限界があるということですので、広域的になれば、ひょっとしたら市だけではなくて、観光で言うとDMOのようなところがスポーツ関係もやってくれる、ひょっとしたら別の団体になるかもしれませんが、そういうものもできてくるかもしれませんので、これは県でしっかりと、コーディネート役になるとは思いますけれども、やらせていただきたいと思っています。

それから、アグリパークにつきましても、そこに人を留めるための施設を造りたい、これは正しい方向だと思いますし、それから体験型、今の観光は、物見遊山ではなくて、自分が体験をしたいという人が多いです。アグリパークのような農業体験、都会の人はなかなかできませんので、名古屋とか大阪、それから東京からも人が来てもらうようなところを考えていくというのは、十分あると思っています。開発規制については、国の方では規制を強化しようという動きになっているところが

あるので、全国知事会でこの話をしていこうと思っていますので、河上市長の知恵をお借りしたいと思っています。この2つについて、進んでおられる方向はその通りだと思います。

後は、外国人をどうやって連れてくるか。アグリパークは、ヨーロッパから来た人が見て楽しむという感じではなくて、日本の都会の方が来られるという感じになると思います。それはそれで、狙いとして正しいと思います。外国の方という意味で言うと、ここにある熊野古道、これをどうやって使っていくかということだと思います。来年は熊野古道世界遺産登録20周年ですので、10周年の時もそうでしたが、キャンペーンを色々やります。2月には、東京のお客さんに対して、和歌山県知事と奈良県知事、これは三重県から声をかけさせていただいて、東京で氣勢を上げようということを考えていますので、ぜひ河上市長にもお出でいただければありがたいと思っています。そこで、マスコミの人に取材してもらって、熊野古道20周年ということを発信できれば、行こうという人が増えると思います。それから、外国の人は、ヨーロッパの人をはじめとして、精神的なもの、スピリチュアルなものが好きな民族が結構いますので、来ていただいて、その人たちにどういうものを提供するかというのは、これからの議論になってくると思います。体験もそうかもしれませんが、三重県ならでは、日本ならではの景色というのものもあるかもしれません。今、県の観光部では、三重県内の各地域のブランドイメージをゾーンとして打ち出し、プロモーションすることを検討しているところです。熊野古道は仰るように、伊勢と熊野三山、那智とをつなぐ道ですので、そういう道を核にして、あるいはツールにして観光客を呼ぼうと。その時に、ひょっとしたら精神性、スピリチュアルな部分かもしれませんが、祈りということかもしれませんし、そういうことでたくさんの方が来ていただけるように。それと、できたら富裕層と言われている方にきていただいて、消費をしていただくことも考えていければと思っていますので、よく相談させていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

## 項目外 インバウンド、熊野古道世界遺産登録20周年について

(市長)

来年、熊野古道世界遺産登録20周年で、やはり日本には、東京みたいな近代的なものを求めるだけでなく、日本の伝統とか文化とか歴史とか、そういうものを求める考えというのは、特にヨーロッパを中心に強くあるのはわかります。ですから、20周年記念の時に、インバウンドも含めて、精神的なものを打ち出していかなくちゃいけないと。もう1つは、10周年、15周年記念の時は、色んなイベント等をやりましたが、一過性で終わってしまっていて、なかなか記念の時の取組が後に続かない。後に効果が残るような仕組みで色んなものをやる必要があるということで、今、一生懸命熊野市が、東紀州の5市町、そして県にも助けていただけてますけども東紀州地域振興公社の中でも、県の観光局の中でも考えていただいているところなんです。ぜひ知事のさらなるリーダーシップのもとで、この20周年を生かして、インバウンドも含めてお客さんを増やしていければと思っていますので、

よろしく申し上げます。

(知事)

河上市長には、インバウンド、観光、特にどういうふうになれば、観光客が来るかということも造詣が深くていらっしゃるので、そういった点でもご指導いただければと思っております。インバウンドをどう持ってくるかというのは大きなポイントです。今、コロナが明けて、日本各地は、コロナ前よりも今観光客が増えているところが結構多いです。それは、インバウンド客を連れてきているからなんですね。そうした中、三重県はコロナ前まで観光客が戻らず実は苦しんでいるところの1つです。なぜなら、今までインバウンド客があまり来ていなかったからです。これから日本の人口はどんどん減っていくので、外国の人が来ると、観光業界の人は面喰くさい、これよくわかるんです。けれども、観光地を今まで以上に賑わいがあるようにするために、そこを考えていかないといけないということです。

熊野古道世界遺産登録 10 周年、15 周年が一過性であったというのは、仰る通りであると思います。昔、国でも観光行政は観光部というところでやっていました。今は観光庁というところになって、政府を挙げてやっていますけれども、昔、運輸省だけで観光をやっていた時には、イベントしかやっていなかったです。おそらく(熊野古道世界遺産登録) 10 周年、15 周年は、イベントしかやっていない。これから、来年度予算から考えていきたいと思っていますのは、観光インフラの整備をやらないと駄目だと。熊野古道に来てください、来てくださいと言っているだけでは無理なので、例えば、宿泊施設を誘致する。それはお金がかかるかもしれません。それから、熊野古道には交通がない。熊野古道はやっぱり歩きますので、峠を越えるのに、片方で車を停めて歩いて、もう 1 回車のところに戻らなくてはいけない。それではやはり人は来ないと思います。その交通をどうしていくか、それも観光インフラだと思います。今までそういうことをやっていなかった、県の方でそういう着眼点がなかったかもしれませんが、これからは、河上市長のお知恵もお借りしながら、進めていきたいと思っています。